

静岡県土地改良と私

静岡県 富士農林事務所
農山村整備部 農村整備課

● 松永 有加
まつなが ありか

土地改良への道

私は、日本一高い富士山と日本一深い駿河湾のある静岡県で生まれ育ちました。実家からは田んぼや畑はほとんど見えず、見えるものは富士山と清水港でした。小学生のころ、母の仕事のつながりです。だんだん茶畑へ毎年行く機会がありました。そこで食べるおむすびや漬物がとてもおいしかったこと、優しいお兄さんに作ってもらった竹トンボが宝物だったことは大人になった今でも鮮明に覚えています。この「だんだん茶畑」が、私が農業土木の職へ進むきっかけとなりました。

高校二年生のとき、進学したい大学や職業についてレポートにまとめるという課題ができました。進学して就職するだろう、と漠然と考えていた私は自分の将来を初めて真剣に考えました。その時、思い出した光景は冒頭に書いた「だんだん茶畑」です。母に「だんだん茶畑に関わるような仕事がいい」と話したところ、静岡県が実施している事業の一つ、一社一村しずおか運動を紹介してくれました。中でも、大学と地域の組織が一緒に農作業を行っているという記事を見て、これだ！と思いました。それから一年後、日本大学へ進学し、四年間農業工学を学んだ私は迷わず故郷の静岡県庁(農業土木職)を受験しました。

土地改良へ携わって

平成二十八年度に静岡県庁へ入庁し、富士農林事務所農村整備課へ配属されました。そこで私は農村地域の共同活動を支援

する多面的機能支払推進交付金、農山村と企業が協働で取り組む一社一村しずおか運動、棚田や里地を守るために保全活動を行うしずおか棚田・里地くらぶなど農村関連のソフト事業や広報業務を主に担当しています。特に多面的機能支払交付金は、静岡県内で全二二三組織が活動しており、それぞれの組

織が、地域のために様々な活動を実施しています。

田んぼや畑周辺の草取り、水路の泥上げ、ため池の管理など営農以外の作業が多岐にわたることから、農山村は常に人手不足です。組織それぞれが人手不足を解消するために、田植えや稲刈り体験、ウォーキングイベントなどを企画し外部から人を呼ぼうと工夫していますが、なかなか理想どおりにはいきません。私の事務所では、毎月開催される定例記者懇談会やFacebookを活用して参加者募集の支援も行っていますが、参加者の増加にはあまりつながらずどうしたらいいのかと頭を悩ませています。都市住民や若い人たちに興味を持ってもらい、継続して活動に参加してもらえないような取り組みを実施しなければ、農山村はどんどん廃れていってしまうのではないのでしょうか。

情報発信の重要性

昨年十月、「第四〇回全国土地改良大会静岡大会」が静岡県



一社一村しずおか運動にて大学生と (写真中央)



土地改良大会にて事業説明（写真左）

沿江市で開催されました。全国土地改良大会は、全国の土地改良事業関係者が一堂に集まり、改めて農業・農村の特徴や果たしている役割を理解するとともに、時世の農政に即した土地改良事業の使命と果たすべき役割を発信するために毎年開催されています。静岡大会は、「ふじのくに」で語ろう 土地改良が創る豊かな水土里を」をテーマに、北海道から沖縄まで全国から約四、〇〇〇人の参加者が訪れ、盛大に式典が開催されました。二日目には県内各地で現地視察が行われ、富士農林事務所では大淵笹場地区（富士市）へ全国の皆様を御案内しました。

大淵笹場は電線の入らない茶園越しの富士山が見える静岡県を代表する農村景観が有名であり、現在県営集落基盤整備事業富士南麓地区を実施しています。この事業は老朽化した用水施設を更新し、地域営農の安定継続を維持するとともに、地域内外から訪れる観光客や茶園管理等のための地域農業活動拠点施設として駐車場等の整備を行います。

現地視察の当日、私は茶娘に扮して事業の説明を行いました。途中、参加者の方から「説明も良いけど、写真を撮らせて」と声をかけられました。当日は快晴で雪化粧をした富士山がきれいに見えたのですが、視察の時間は一時間と短く、事業説明をすべて聞いていると写真撮影の時間が無くなってしまいうためでした。この一言を聞いたとき、「富士山とお茶」という静岡県を代表する景色が全国の皆さんを魅了したのだ、と実感しました。人々を魅了するためには、その場に足を運んでもらわなければなりません。足を運んでもらうためには興味をもってもらわなければなりません。SNSを活用した情報発信が主流となってきた昨今、人々の心をつかむ「写真」や「動画」を用いながら農村の魅力を積

極的に発信しなければなりません。さらに、誰でも簡単に情報発信ができる今だからこそ、新鮮な情報を世の中へ発信し続けなければならぬと思います。人々の食を支える農業農村整備事業に興味を持ってもらえるよう、人々の目に留まる情報の発信を頑張っていきたいと考えています。

むすびにかえて

静岡県では、農山村の魅力を通じて、静岡県の農山村を守り盛り上げていこうと「農山村サポーター むらサポ」の募集を行っています。県内の農山村の魅力やイベントを「acebook」メールマガジンを通して紹介しています。また、富士農林事務所も「acebook」を開設しています。農村だけでなく、林業や農業についてのホットな情報を紹介していますので、ぜひご覧ください。

今回は、大豊建設株式会社土木本部土木技術部技術設計課の長田裕美さんにバトンを引き継ぎます。

松永さんからのバトン、しっかり受け取りました。農業土木の経験はありませんが、「けんせつ小町」として土木の魅力をお話しできたらと思います。楽しみにしてください。

大豊建設株式会社

土木本部 土木技術部

技術設計課

おさだ
長田 裕美









むらサポ しすおか
農山村サポーター

富士農林事務所
ホットな話題を更新中！